

日本地衣学会

No.137

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告	509
	日本地衣学会第15回観察会の報告/山本 好和	509
	日本地衣学会第15回観察会に参加して/坂東 誠	511

会務報告 *Report of the JSL Activities*

日本地衣学会第15回観察会の報告

Report of the 15th JSL Field Meeting at Nara, October 2016 / by YAMAMOTO Yoshikazu

>>>> 山本 好和 (大阪府寝屋川市)

近畿地方で初めての学会観察会開催である第15回観察会は、10月1-2日、奈良県洞川(どろがわ)温泉・御手洗(みたらい)溪谷で行われた。洞川温泉は大峰山の登山口にある温泉で、大峰講に参加する人たちがいつもにぎわいを見せるところである。御手洗溪谷は大峰山に源を発する山上川の溪谷で、遊歩道が洞川温泉から天川川合まで整備されている。今回の参加者は7名、行程を以下に示す。

10月1日(土曜日)

- 12:20 近鉄吉野線下市口駅集合、バスで洞川温泉へ
- 13:30 洞川温泉にて地衣類観察
- 16:30 宿舎(あたらしや旅館)、夕食後地衣類談義・地衣類相談

10月2日(日曜日)

- 8:30 旅館発、御手洗溪谷にて観察会、天川川合へ
- 12:30 天川川合バス停にてバス乗車
- 13:30 下市口駅着、解散

1日目。バス下車後宿舎へ、宿舎前で記念撮影後(図1)に荷物を預け、旅館庭の灯籠を覆いつくすヤマトキゴケ(図2)に全員感動。その後、宿舎近くの龍泉寺に移動して、境内の地衣類を観察した。境内の杉の木にはサルオガセと葉状地衣類が鈴なりにになっていた。境内の地衣類を堪能した後は、境内とはちょっと異なる雰囲気御手洗溪谷入り口に回り、同じく杉の木の地衣類を観察してこれも楽しい時間を過ごした。予定通りの時間に宿舎に戻った後、夕食はポタン鍋(図3)を囲み、夕食時もその後も地衣類談義に花を咲かせて1日目が終わった。



図1. 宿舎前の記念撮影



図3. 夕食のポタン鍋.

図2. 灯籠を覆いつくすヤマトキゴケ. (右)



図4. 切り株のキリタケ (シラウオタケ). (下)



2日目、御手洗溪谷の入り口を素通りして溪谷沿いの歩道を進み、3月に下見して確認しておいた数か所のチェックポイントで地衣類を観察した。中でも切り株上のキリタケ(図4)は必見だった。川迫川との合流地点直前は、滝の連続で壮大な瀑布の連なりは見事なものであった。昼食後、溝口さんの車に分乗し天川川合へ。そこで溝口夫妻と別れ、残りの参加者は下市口駅で解

散した。

参加者が少なかったのは残念であるが、下見を含めて確認した地衣類は約70種にのぼり、天候にも恵まれ多くの地衣類を観察できたことは非常によかった。今後採集品の同定を進め、機会を見てLichenologyに報告する予定である。

日本地衣学会第15回観察会に参加して

My Impression of the 15th JSL Field Meeting at Nara, October 2016 / by BANDO Makoto

坂東 誠(大阪府池田市)

私が地衣の観察会に度々参加するようになって20年以上になりますが、宿泊を伴う観察会に参加したのは久しぶりでした。

今回の日本地衣学会第15回観察会1日目(2016年10月1日)は、山本好和さん、高萩敏和さん、石原峻さん、三井崇史さんとともに13時半頃、奈良県吉野郡天川村洞川に到着し、皆で荷物を預けるために宿へ寄った後、曇り空のもと地衣の観察を早速始めました。

今回の観察会では、主に山本さんから説明を受けながら地衣を観察しましたが、山本さんから「天川村洞川には、ここの地名であるドロガワを冠したドロガワサルオガセが生育しているはず」旨の話があり、このドロガワサルオガセを探して観察することが、今回の目標の一つとなっていました。

この日はまず、宿の近くにある「龍泉寺」へ行き、そこに生育する地衣を観察しました。垂下している樹状地衣を見かけるたびにドロガワサルオガセではないかと皆で観察したのですが、残念ながらドロガワサルオガセを見つけることはできませんでした。個人的な印象として「龍泉寺」に生育する地衣は、敷地面積の

割に種類が比較的多いものの、地衣体が崩れていたり、変色していたりしたものが多くあり、この付近の環境が急激に変化しているのではないかと少々心配になりました。

この日はさらに「龍泉寺」から徒歩で五分ほど離れた場所にある「みたらい遊歩道」の出入口付近へ移動し、そこに生育する地衣を観察しました。ここでもドロガワサルオガセを見つけることはできませんでした。私が今まで観察したことがなかったトガシアワビゴケを観られたことや、子器を付けたキウメノキゴケを観られたことが印象に残りました。

その後、溝口患敬さん夫妻と合流し、宿にて一泊したのですが、宿では夕食時や夕食後に、山本さんや溝口さんから研究をはじめた当時(数十年前)の話や、観察会参加者各人から最近の地衣研究活動の話などを聞くことができました。特に山本さんの地衣組織培養法開発に至るまでの話(裏話)や、論文作成などに使用していた機材の変遷話などは、普段なかなか聞く機会がないだけに、とても興味深く聞かせていただきました。

観察会 2 日目 (10 月 2 日) は、早朝に雨が降ったものの、宿を出発した朝 8 時半頃から観察会が終了した 13 時頃までは雨が降ることもなく、観察日和となりました。この日は、天川村洞川から「みたらい遊歩道」および「みたらい渓谷遊歩道」を通過して天川村北角へ抜けるルートに沿って生育する地衣を観察しましたが、残念ながらドロガワサルオガセを見つけることはできませんでした。しかしながら個人的には、私が今まで観察したことがなかったキリタケを観ることができたのが、最も印象に残りました。

今回の 2 日間に及ぶ観察会では、ドロガワサルオガセを観ることができなかったものの、個人的にはトガ

シアワビゴケやキリタケを観ることができ、また子器が付いたキウメノキゴケなどを観ることができ、さらには山本さんをはじめ観察会参加者の様々な話を聞くことができ、とても有意義なものとなりました。私自身は仕事などの都合もあり、宿泊を伴う観察会に度々参加するのは難しいのですが、また機会があれば、このような観察会に参加してみたいと感じた 2 日間でした。

最後になりましたが、今回の観察会を立案していただいた山本さん、宿の手配などをしていただいた溝口さんに感謝の意を表します。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 137, pp. 509-512: eds. Nakashima H., Bando M., Kawakami H. & Harada H., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 20 Oct. 2016.

日本地衣学会ニュースレター 137号

発行日：2016年 10月 20日

編集：中嶋裕之・坂東誠・川上寛子・原田浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒658-8558 神戸市東灘区本山北町4-19-1

神戸薬科大学 薬化学研究室

©2016 日本地衣学会 (© 2016 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。